

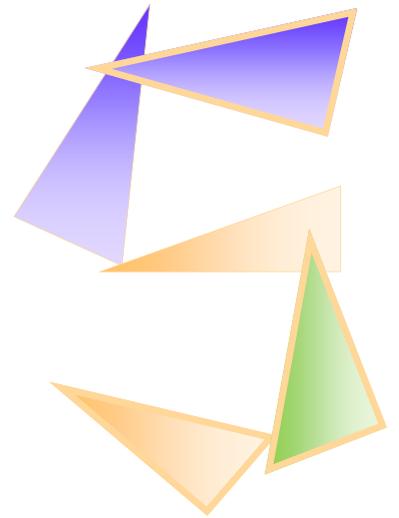
美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

CONTENTS

館長のつぶやき	2
BIREKI・レポート	3
いさはやの生活	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	8

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.17



開館から5年の時を刻みました

美歴エントランスホールの置時計～毎日、静かな鐘の音で時間をお知らせしています～

館長のつづやき

「時」と「日記」の価値

▲平成の時代が間もなく幕を閉じるが、巷ではこの30年間でどのような時代であったか等の報道で賑わっている。故きを温ねて…、新しきどころか反省ばかりがウソのごとく湧き出てしまう。そして〈あの時、こうしておけば…〉のため息だ。ギリシャ神話には時の神としてカイロスとクロノスが登場する。カイロスは時刻を司り、クロノスは時間を司る神という。カイロスは、前髪はフサフサしているが後はツルツツで、常に走っているようだ。近づいて来るカイロスを捕まえようとするが、前髪を掴み損ね後頭部に手が、結局捕まえられない。それが時刻だという。「史記」にも、時は得難し失い易しとあり、将に「時は金なり」だ。しかし、時は記録されることで価値が高まる気がする。

▲いつの頃からかは不勉強ながら「記録」することを教えてくれた神がいたようだ。「絵で残す」、「文字で残す」だ。また遺跡、自然界の痕跡、例えば地層なども大きな意味でその範疇になるだろう。記録があったお陰様で我々は過去の出来事などが把握できる。そうした記録の中で、やはり関心をもつ物の一つに「日記」がある。日記の定義はともかく、紀貫之「土佐日記」、藤原道綱母「蜻蛉日記」、「紫式部日記」など日記文学と呼ばれるものもあり、「吾妻鏡」のように日記調の記録もある。それらは、時々の時代の事象等を伝えてくれる。だから大事だ。絵巻物も、言葉では表現が難しい事象を伝えてくれる日記的記録だ。

▲ところで、我が諫早の過去を知ろうとするとき、大方は何を参考書にするであろうか。もちろん関心事により扱う文献・参考書は異

なるが、その時々々の出来事をほぼ忠実に記録したものが意外に少ない気がする。明治以降は印刷技術が進み「新聞」に記録が残されているので相当程度理解できるが、正直、新聞記事ですら時の社会環境、あるいは筆者の心情等により事実の表現が微妙に変わっている場合がある。

▲諫早家が残した「日記」「日新記」などは、主に佐賀の諫早屋敷で書かれたものだが、政庁の記録以外、領主の動静、行事、内政一般など多岐にわたる備忘録的記録も含まれているようだ。しかし、1,031冊に及ぶ「日記」等は未だ全容が解明できておらず、諫早の、諫早家のそして周辺の事象・出来事が十分把握できていない。関係者の解読作業に期待したいものだ。林修氏ではないが、今やらないで何時やるかを想う。時を記録した諫早家の日記は諫早の最も大事な宝だし、考証により「歴史」につな

つながるからだ。そういえば、自分自身の記録も未完成どころか…だ、反省。



(写真は、西郷時代から700有余年諫早を見守っている高城山頂の大楠)

BIREKI・レポート

Vol. 8 佐賀藩のすがた展 & 美歴 秋のツアー2018

佐賀藩のすがた展



昨年8月11日(土)～1月14日(月)まで、佐賀市歴史民俗館にて「肥前さが幕末維新博覧会」の記念事業として「佐賀藩のすがた展(親類同格展)」を開催しました。諫早は多久、武雄、須古と共に佐賀藩の「親類同格」であったことから出展し、開催中は当館学芸員による展示解説・講演や、佐賀から諫早へ講師をお招きし、諫早家や佐賀藩に関する講演会を開催し、多くの方にご来場いただきました。明治維新から150年という節目に地域の歴史から学びを深める良い機会になりました。



▲11/17 「長崎警備とは何か」
徹古館主任学芸員 富田紘次先生



▲11/18「早田運平とエーセル
テレカラフ」佐賀市歴史研究会
会員 多久島澄子先生



▲11/25「親類同格とは何か」
佐賀城本丸歴史館 学芸員
藤井祐介先生

美歴 秋のツアー2018



美歴の大人気企画！バスツアーを開催しました。

今回は「多良岳巡礼ツアー(10/27)」で、諫早市と佐賀県にまたがる多良岳の鎖場や起伏の多い道を4時間ほど歩き、金泉寺の秋の大祭にも参加しました。

美歴を出発し、金泉寺の大祭、太良岳一ノ鳥居、梵字板碑、十六羅漢石像、針の目んず、罪人落とし、太良嶽大権現上宮、へっちゃん岩、座禅岩、鬼の門など、昔の山伏の人たちが、実際に修行をしていた道を通りましたが、山内に残るいくつもの歴史の跡から、山伏たちの修行の様子を学ぶことができました。



3月にもバスツアー(島原方面)を予定しています！
詳しくは、お知らせコーナー(本冊子最後)をご覧ください。

(福井遥香)

いさはやの生活

VOL.4 迷子

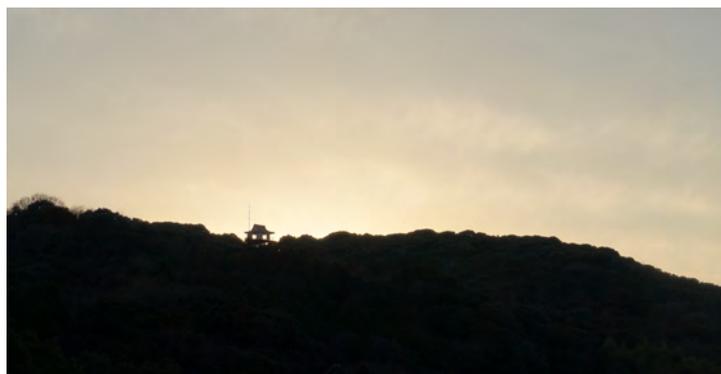
「迷子」は時折り耳にする詞です。迷って家に帰れなくなった子どもなどです。似たような感覚での詞に「行方不明」があります。こちらは字の通り行く先が不明、どこへ行ったか分からない。ということですが、迷子は「迷子」というように、とりわけ子どもがよくなりやすかったようです。子どもは大人と違い、心身ともに弱く、魂が不安定で、狐などに騙されやすい、引かれやすいと考えられていました。古くは狐に騙されて連れて行かれた、という考えが大方でした。

こうした迷子を昔はどのようにして捜していたのでしょうか。迷子捜しは現代と違い、山や林のなかを捜すことが大半でした。山やうっそうとした森、林には猿や狐、狸などがいて、そこで人が化かされたという話は今でも聞くところですが。迷子は狐や狸に化かされて引かれたということでしょう。

迷子は家族や親戚、知人たちで捜します。ところよっての捜し方がありました。諫早では先頭が松明をともして、子の名を呼びながら列をつくって山中を歩きます。その列のあと、すこし離れて、一人の男が杵をもって叩きながらついて行きます。このとき「おいは知とつとばってん」と言うものでした。狐はその詞を聞くと、連れてきたのが分かってしまった、と思って返してくれるというのです。このやり方は県内では広く見られました。

『長崎名勝圖繪』にも「提灯松明を照らして、山に登り谷に下り、野に走り岡をめぐり……返せ戻せの聲を揃え、鉦太鼓を打ち鳴らし、杵の底を叩き……児の名を呼び人数をかぞえる……」とあります。ここで人数を時々数えるのは人数が増えたり減ったりすることがないように。騙されないようにということです。ときには増えたり減ったりしたことがあったのでしょうか。杵のかわりに桶や空き缶を叩いていたこともあります。松明や杵、或いは桶は魂を引き寄せ、容れる容器です。子の名を呼ばわり、大きな音で狐に捜していることを知らしめ、迷子の魂をここへ戻すことで子どもを取り戻そうとしていました。

山は不思議な空間です。方向や時間の間隔があいまいになります。魂がふらふら離れることがよくあったのでしょうか。



夕暮れ時の愛宕山(上山公園)

いさはやの歴史 年号と諫早

天皇皇后両陛下が4月31日に退位され、2019年5月1日より皇太子御夫妻が即位されます。平成が改まり、新しい年号は2019年4月1日に発表されることが決まりました。日本での年号は大化元年(645)が始まりといわれ、平成31年(2019)まで続いています。現在まで年号の改元は様々な要因で改められ、代始改元(天皇の即位など)、祥瑞改元(珍しい・めでたい現象)、災異改元(疫病・地震・火災など)、革年改元(甲子・戊辰・辛酉の年)などにおこなわれてきました。平成後の年号がどのような年号になるか楽しみではありますが、諫早にも年号にまつわる寺院や石造物などがあるので紹介してみたいと思います。

和銅寺(高来町法川・本尊は県指定文化財)

和銅寺は元明天皇の勅願寺として行基菩薩が創建したといわれており、創建された和銅元年(708)の和銅を寺号として使用しています。本尊の十一面観世音菩薩立像は「肥前七観音」の一つで、御開帳は60年に1度の秘仏です。また、和銅寺のように、年号が寺号となっている名な寺院には「延暦寺」(滋賀県大津市)・「寛永寺」(東京都台東区上野)などがあります。

西郷の板碑(西郷町・県指定文化財)

板碑には上方に胎蔵界大日如来、右下に不動明王、左下に毘沙門天の種子が月輪の中に彫られ、不動明王と毘沙門天の種子の間に「建久元季才次庚戌十一月日」と彫られています。この板碑は長崎県下で年号が彫られた石造物で一番古いといわれます。

慶巖寺の名号石(城見町・県指定文化財)

名号石には中央に薬研彫りで「南無阿弥陀仏」、右手に「右意趣者為法界衆生平等利益也 貞和七年辛卯四月十三日一結敬白」下方に27~28名の名が彫られています。「貞和」は北朝方(武家方)の年号ですが、「貞和7年」は日本史年表などに記載されていない年号で、貞和7年は観応2年(1351)にあたります。南北朝時代に北朝方でありながら、貞和から改元された観応の年号を用いなかった勢力が諫早に居たことを示す大変貴重な石造物です。



板碑年号部分(左)と拓本



名号石年号部分(左)と拓本

大貝彌太郎展の開幕に寄せて

「戦中の諫早を描いた画家 大貝彌太郎展」を開催することになったきっかけは20年以上前に遡ります。平成7年に温子夫人が『大貝彌太郎遺作集』を刊行した折、諫早市教育委員会を訪問されたことが始まりです。昭和21年に大貝が亡くなり、すぐ諫早を離れた温子夫人にとって50年ぶりの帰郷でした。その時はまだ、諫早で暮らしていた借家が現存していて、絵に描かれた台所がそのままの姿で残っているのを見た温子夫人は、当時のことを思い出して感激されていました。

「大貝と私の人生は、諫早から始まったと言っても間違いのないほど、諫早という土地に愛着を持っています。」と語った温子夫人。諫早で過ごした5年間は戦争という非常時でしたが、夫や子供たちと過ごした時間は楽しい思い出に満ちたものだったのでしょうか。思い出深いこの諫早という地で、諫早を描いた作品が展示されることを心から望まれていました。そして今回、美術・歴史館での展覧会が実現しました。大貝家の皆様をはじめ、様々な方のご協力なくして開催することはできませんでしたが、何より、諫早を愛し、寸暇を惜しんで多くの作品を残した画家大貝彌太郎と、すべての作品を一つも失うことなく守り続け、世に出るきっかけを作った温子夫人に心からお礼を申し上げます。

大貝 彌太郎（おおがい やたろう） 1908-1946（明治41年～昭和21年）

画家。福岡県遠賀郡水巻村生まれ。1941年図画教師として旧制諫早中学校に赴任。1946年結核のため諫早で逝去。享年38歳。



《自宅台所》1946年

画像提供：水巻町歴史資料館



《桃の咲く頃》1943年

画像提供：水巻町歴史資料館

古文書の部屋

古文書と現代語

近世の古文書の中でよく使われる用語や熟語は多くありますが、現代語と読みや文字が多少異なるもの、また反対に大きく異なるものなど、種類は様々です。

ここではそれら熟語の一部を意味や使用例もまじえ、現代語との違いに注目した2つの例に分けてご紹介します。

現代語と意味がほぼ同じもの

- ・「越度」—— 読み:おちど / 意味:あやまち、過失
- ・「有増」—— 読み:あらまし / 意味:おおよそ、だいたい
- ・「得与(篤与)」—— 読み:とくと / 意味:念を入れて、よく注意して
- ・「成文」—— 読み:なるたけ / 意味:できる限り、なるべく
- ・「停止」—— 読み:ちょうじ / 意味:やめさせること
- ・「陸々」—— 読み:ろろく / 意味:十分に
- ・「都(凡)」—— 読み:すべて / 意味:みな、ことごとく

…など

現代語と意味が一部もしくは全く異なるもの

- ・「身上(身軀)」—— 読み:しんしょう(しんだい) / 意味:①財産②らしむき
- ・「有軀」—— 読み:ありてい / 意味:①ありのまま、実情②普通、型通り
- ・「有付」—— 読み:ありつく / 意味:在住する
- ・「当時」—— 読み:とじ / 意味:現在、今
- ・「一倍」—— 読み:いちばい / 意味:①二倍②一層、ひとしお
- ・「自然」—— 読み:しぜん・じねん / 意味:①おのずから②もし、万が一
使用例)…②自然相背者有之者(じねんあいそむくものこれあらば)
→もしも背く者があったなら
- ・「仕合」—— 読み:しあわせ / 意味:①幸運、幸運にめぐりあうこと②めぐりあわせ、運命
使用例)…①難有仕合奉存候(ありがたきしあわせにぞんじたてまつりそうろう)
②此仕合二逢何共迷惑仕候
(このしあわせにあいなんともめいわくつかまつりそうろう)

…など

参考

—表記と読みが特殊な言葉—

「耳」—— 読み:のみ / 意味:～だけ

「歩行」—— 読み:あるく / 意味:歩く

使用例)…歩行者有之候(あるくものこれありそうろう)

…など

館特別企画

◆講演会◆

日時／3月24日（日）
午後1時30分～3時
講師／大分県立美術館 館長 新見 隆 氏
会場／美術・歴史館2階研修室
※受講料無料、事前の申し込み不要

館企画展

レコジャケットアート展

～タテ×ヨコ31cmの美術館～

ブーム再燃中の「レコード」のジャケットアートを愛する企画展。ロック史に残る傑作ジャケットの数々を、ウォールホールやヒプノシスなどデザイナーくくりで紹介。



期間／2月16日（土）～3月10日（日）
※休館日：毎週火曜日
午前10時～午後7時※最終入場18：30
会場／1階ホール
観覧料／無料

―編集後記―
新しい年が明けました。
2019年3月1日に美歴は5周年を迎えます。
おかげさまで、これまで15万人を超える皆様にご来館いただいております。
本年も、皆様に親しまれる「美術・歴史館」を目指して。
(野田さやか)

賞館の利用について

美術・歴史館のホール、企画展示室、研修室はどなたでも利用できます。（要予約・有料※減免制度があります）
ただし、利用目的が美術（写真、漫画を含む）、華道、茶道及び歴史などに限られております。詳細については、お気軽にお尋ねください。

館講座

館長講座

日時／2月2日（土）
午前10時30分～12時
内容／諫早のメディアの変遷
会場／美術・歴史館2階研修室
日時／3月16日（土）
午前10時30分～12時
内容／諫早を3分間で紹介する
会場／美術・歴史館2階研修室

※受講料無料、事前の申し込み不要

民俗講座

日時／3月2日（土）
午後1時30分～3時
内容／農具一畝や犁を中心に
会場／美術・歴史館2階研修室

※受講料無料、事前の申し込み不要

史跡見学バスツアー

日時／3月9日（土）
午前8時30分～午後5時
集合・解散場所／

諫早市美術・歴史館

内容／西郷氏や龍造寺氏と関わりが深い神代鍋島邸・鶴亀城址・島原城・日野江城址・原城址を見学します

申込方法／ハガキ、ファクスまたはメール（bireki@city.isahaya.nagasaki.jp）に、所、氏名、年齢、電話番号を記入し、2月18日（月）までにお申し込みください。

（※当日消印有効）

その他／参加費800円（保険料、入場料）
※定員を超えると抽選となります